

交通拠点整備基本計画検討業務
第 3 回 沖縄市交通拠点まちづくり基本計画検討委員会

日時：令和 7 年 10 月 2 日（木）15：00～17：00

場所：沖縄こどもの国 チルドレンズセンター 2 階

1. 開会

2. 議題 1) 設置要綱について

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
沖縄市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置要綱の別表の変更を行った。 ・ 委員の役職変更、新たな委員の任命・追加等である。この設置要綱について、ご意見はあるか。 	<p>(一同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 異議なし。

3. 報告 1) 前回議事要旨

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
沖縄県 バス協会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の趣旨は、バスタ整備はうるま方面だけでなく反対側（那覇方面）も含め、バス停全体を一体的に国が整備した方が良いという考えである。沖縄市として一体的な整備を国に強く要望してほしい。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、国と連携していく。

報告 2) 令和 7 年度取組内容について

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
コザ商店街 連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実証実験で講演会・ワークショップが実施されているが、実施内容と検証結果を教えてほしい。 ・ 実証実験で空地等を活用した広場の実験において、実験場所は地権者に了承済みか。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後ご報告させて頂く。 (令和 7 年度取組みにて報告) ・ 国道拡幅の事業用地及び残地（地権者の了承済み）を利用して実施した。 (令和 7 年度取組みにて報告)

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
中の町 自治会	<ul style="list-style-type: none"> 全体の計画で、基本計画はどの位置なのか。また、基本計画を策定した後について教えてほしい。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本計画は、基本構想の内容を実現していくために必要な施策を検討し、とりまとめたもの。基本計画を策定することで、施策や役割等が定まり、事業が分かりやすくなる。 <p>(委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 構想はイメージに過ぎないが、基本計画はそれを実現するための方法（法律・制度・技術など）となる。
コザ 商店街 連合会	<ul style="list-style-type: none"> 連合会では補助金を受けて、14年前から無料駐車券を配布してきたが、本年度で終了する。今後、無料駐車券を配布する予定があるのか。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回は駐車券の配布ではなく、既存駐車場を整理し、バスタとの連携可能性を模索する。 (令和7年度取組みにて報告)

報告 3) 沖縄市交通拠点まちづくり基本計画（素案）について

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
沖縄県 バス協会	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄市の計画では、バスタ整備を、上り線と下り線を一体に整備するものとして記載してほしい。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> バスタ区域は現在検討中のため、「イメージ」と記載しており、引き続き国と連携しながら検討していく。 <p>(南部国道事務所)</p> <ul style="list-style-type: none"> 沖縄市のまちづくりと連携して進めている。必要な機能については、関係者にヒアリングを実施し、将来を見据えた議論を行っている。確定した配置計画をお示しできないが、連携して進めているため、ご理解をいただきたい。

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
南部国道事務所	<ul style="list-style-type: none"> 「多様な文化との連携発信機能」と「スポーツ交流機能」については、これらをバスタ内で機能を持たせるのか、それともバスタを含む周辺のまちで機能させるのか、考えを教えてほしい。最終的には役割分担や予算の事になるため、それを意識しながら進めていきたい。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> コザ運動公園（沖縄アリーナ含む）や沖縄こどもの国などとバスタ中でも何か連携できればと考えている。具体的事項は今後、幅広く検討していきたい。
胡屋大通り会	<ul style="list-style-type: none"> 今年度で基本計画を策定することだが、沖縄市としては、国道 330 号の両側にバスタ事業があり、進めていくという認識か。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 沖縄市としては、基本構想の段階ではあるが両側整備のイメージである。
埼玉大学 大学院 理工学 研究科	<ul style="list-style-type: none"> 単なる交通の施設ではなく、胡屋地区を沖縄市及び中部都市圏の拠点として中心性を高めていく取り組みが重要。 基本計画は交通施策中心だが、市役所の各部署と連携し、公共施設等総合管理計画や立地適正化計画を活用し公共施設の誘導を図り、商工部局と連携し民間の力を活かした賑わい創出を推進することが重要。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ご意見を踏まえ、今後の課題として明記する。 今後、立地適正化計画、ウォークブル推進計画、仮)都市再生整備計画などの策定を想定しており、庁内の連携も踏まえながら進めていきたい。
埼玉大学 大学院 理工学 研究科	<ul style="list-style-type: none"> 今後の進め方として、交通施設の必要機能と関係者（国、市役所、地元）の役割を検討するが、役割分担を過度に意識せず、明確な機能は事前決定し、曖昧なものは必要性を合意の上、後日調整など柔軟な整理の仕方が必要ではないか。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ご意見を踏まえ、各施策を進めるにあたり、詳細の役割等を調整しながら柔軟に対応していくこととしたい。

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
沖縄市 社会福祉 協議会	<ul style="list-style-type: none"> 「地域連携・訓練体制」では、消防団などの追加を提案したい。 「多様な移動手段への対応」では、福祉・介護関連の移動車両の環境の検討を希望する。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 消防団などの自主防災組織は「地域」(住民)の役割として整理したい。 福祉車両については、現在国土交通省で特定車両の追加が検討されており、状況を踏まえながら検討する必要がある。
センター 自治会	<ul style="list-style-type: none"> センター自治会は、本年度から「自主防災・防犯組織」を立ち上げ、9月23日に公園で消火器体験会を実施し、9～11月に防災講座を3回開催して地域連携による防災意識向上を図っている。センター街公園には防災対応の発電機と蓄電池を設置予定。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災機能の向上の取組みとして、地域との連携は必要不可欠であると考えており、連携施策を検討したい。
コザ 商店街 連合会	<ul style="list-style-type: none"> バスタ事業とそれ以外の事業が存在する。関係者への説明は基本計画策定後に行うのがよいのか。 街中に、情報伝達拠点がなく、バスタ事業開始までの期間、どのように情報を伝えるべきか。行政に検討をお願いしたい。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市基本構想や本日の資料は公開されており、その内容は共有可能である。 試験的に、まちなか交流拠点として、空き店舗を活用した情報発信の場を考えている。 (令和7年度取組みにて報告)

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 沖縄の都市計画では、県外事例のような広い空間のイメージの実現可能性が課題で、狭く迷路のような道(すーじー)などを活かす必要がある。地元住民と協力し、沖縄市の中心地や中部拠点象徴する広場や拠点となるよう具体的に計画することが重要。 ▪ 立体交差(歩行者デッキ)による接続や広場での楽しみ方を考慮すべき。また駐車場確保の難しさから、国道下や沿道への地下駐車場建設ができれば、歩行者デッキ、地下駐車場、ショッピングモールの導入による活性化が進み、中部圏域における求心力が高まるのではないか。 ▪ 立体的な視点をもって実現可能性を向上させ、沖縄全体の交流拠点を相互に配置する戦略的な計画を進めてほしい。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> • ご意見を踏まえ、ウォーカブルエリアの検討において、交通結節点周辺の公園やゲート通り・パークアベニュー・すーじー等が連続するパブリックスペースの配置方針について整理した。(資料 3) • 今回、立体横断施設や交通広場のイメージを整理した。(資料 3) • 本市の交通拠点まちづくりは、第 4 回中南部都市圏都市交通マスタープランにおける「都市圏の南北骨格軸」(拠点都市間)の形成を担うものと認識しており、関連計画として整理した。(資料 3)
合同会社 イドムス	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 平成 28 年に都市計画決定したパークアベニュー双方向通行化から約 10 年で実施されているが、現在はウォーカブル(歩行者中心の街づくり)の概念があり、時代と共に変化している。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 商店街を中心にゲート通りやパークアベニューなどを含む範囲をウォーカブルエリアとして設定しており、将来の双方向化を見据えた道路空間の利活用(交通規制等による歩行空間創出など)についても検討していきたい。

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
<p>琉球大学 工学部 工学科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちの変化に柔軟に対応するため、事前情報伝達機能を含むアーバンデザインセンター（UDC）の設立が重要。 ・ 21 世紀ビジョンで官民学連携による拠点づくりが記載されているため、これを推進すべきである。 	<p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度は、まちなか交流拠点の実証実験を行っているところであり、地域との接点となるような取り組みにつなげていきたいと考えている。 <p>（令和 7 年度取組みで報告）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度琉球大学及び東京大学において、胡屋バスタに関連する授業や研究を実施していただいたところであり、今後の学との連携も強化していきたいと考えている。
<p>琉球大学 工学部 工学科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活道路対策について、通学路の要素が必要ではないか。また、無電柱化を推進することで道路空間が広がり、機能の活用がしやすくなるという点も考える必要がある。 ・ 県観光危機管理実行計画では、帰宅支援のための拠点づくりの議論がおこなわれているため、防災機能に、観光（客）を記載してもらいたい。 ・ 「イメージ図」は現時点の案なので、デッキで繋いだ図などを提案してみてもよいのでは。 ・ 資料 4 の役割分担（案）にバス事業者も必要ではないか。基幹バスやバス停のグレードアップなど、バス事業者が協力しやすい事項を含めるとよい 	<p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通学路を中心とした対策として整理した。無電柱化については、歩きやすい道路空間づくりとして整理した。 ・ 地域住民や観光客等を対象として整理を行った。 ・ 今回、立体横断施設や交通広場のイメージを整理した。（資料 3） ・ 今回、役割分担（案）に追加した。（資料 3）

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
<p>内閣府 沖縄総合 事務局 開発建設課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ウォーカブル事業は、大都市や大企業のある場所のように人通りが多いエリアでは計画が立てやすいが、地方都市では取り組みが点在しがちなので、線でつなげる視点をもち、成功事例を参考にすることが重要。また、商店街や住民と連携した一体的な取り組みを進めてほしい。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度においては、交通結節点を中心に周辺街路や公園等と連携したパブリックスペースの方向性を整理したところであり、ご意見を参考に今後のウォーカブル推進計画の検討に活かしていきたい。